

第14回 MBI（マルチメディアを基礎にした教育）発表会プログラム

日時：平成24年2月14日（火）13:00～16:00

場所：フロネシス講義室2（8211）

※ 1演題20分 発表時間15分 質疑5分（入換時間含む）

13:00～13:10

開会の辞：久保 陽徳 理事長・学長

<<発表前半の部 13:10～14:10>>

1. 13:10～13:30

テーマ：薬学教育における統計解析ソフトの活用

植沢 芳広（臨床薬剤学）

要旨：SPSS、STATISTICA-Base、およびFreeJSTATは、本学学生に使用権の認められた統計解析ソフトである。SPSSは文部科学省大学教育改革支援事業である医療人GPによって本学に導入された（学内使用）。STATISTICAは本学にライセンスされているChemBioOffice Ultra 2010と同時にインストールされる。FreeJSTATは開発者のご厚意により本学における教育目的での使用を許諾されている。いずれのソフトウエアも高機能であり様々な用途に適用できるが、種々相違点を把握することによってより適切な運用が期待できる。本発表では学内における各々の使用環境等を概説する。

2. 13:30～13:50

テーマ：産業技術総合研究所 生命情報科学技術者養成コースにおける計算機実習の紹介

野口 保（薬学教育研究センター 数理科学部門）

要旨：産業技術総合研究所 生命情報工学研究センターにて、平成17年度から平成21年度までの5年間行われた、文部科学省 科学技術振興調整費 新興分野人材養成による「生命情報科学技術者養成コース」は、のべ466名の修了者を出し、事後評価でS評価を得ました。本発表では、本コースの概要と、実際にコンピュータを操作しながら行う実習例として「バイオインフォマティクス速習コース タンパク質立体構造予測実習」の内容について紹介します。

3. 13:50～14:10

テーマ：授業におけるマルチメディア機器の有効利用：ピアレビューに参加して

日堂 修（薬学教育研究センター 基礎生物部門）

要旨：薬学教育研究センターではFD活動の一環として、授業のピアレビューを行い、評価のとりまとめを行った。授業は、教科書以外の教育媒体を利用しながら進行されており、教科書は、適切に使用しているという評価が多かった。最も多く利用されていた教育媒体は、板書とプロジェクターの併用で、プロジェクターにはパワーポイント、資料提示装置画像が用いられていた。そのほか、WEBページ、AV機器などを利用する場合もあった。評価の中からマルチメディア機器の有効な利用について紹介したい

<<休憩 14:10～14:30>>

<<発表後半の部 14:30～15:40>>

4. 14:30～14:50

テーマ：患者の語りから医療倫理を学ばせる

佐藤 準一（バイオインフォマティクス）

要旨：例年1年後期の生理学講義を担当していると、最近の学生の学習意欲の低下をひしひしと感じてしまう。講義の後で質問がないことが多く、あったとしても、プリントはもらえますかと言ったぐいである。意欲低下の原因を分析すると、1年生は将来医療人として働くという自覚が全くないことに気付く。入学時には全員が薬剤師や薬学研究者を志望しているはずだが、患者の幸福のために全力を尽くさなければならないという医療現場の厳しさを実感していないためか、自らの学習不足が将来的には患者に不利益をもたらすという危惧がない。生涯教育の観点からは、スタートラインの1年時こそ、医療人としての責任感を持たせる最適な時期である。病気を抱えた患者にとって何が大事な問題か、どんなことに勇気づけられるのか、全ては個々の患者が語る生の言葉の中にある。毎回の講義の終わりに、患者の語り(DIPEx)を導入し、医療人教育に取り組んだ試みを報告する。

5. 14:50～15:10

テーマ：講義アーカイブス化：ビデオ録画による授業振り返り

石橋 賢一（病態生理学）

要旨：サイバーキャンパスのeducampusとbloggie(SONY)による録画で講義をアーカイブス化している。ソフトなし(exe)やmp4化でiPodなどでも利用できる。録音からの授業録画再構築や、スタジオ録画による定期試験解説配信も行った。授業を振り返るツールのみならず、学生の復習(70-80%利用)やPodcasting・eカレッジにも利用可能で、講義トランスクリプトも作成している。

6. 15:10～15:40

テーマ：初学年におけるアンケートから見る学生気質の変化

和田 義親（薬学教育研究センター 数理科学部門）

要旨：基礎物理学の授業では毎年、初日に学生の基本的な受講姿勢と基礎学力を把握するためにアンケート調査をしている。また、授業終了後に学生の満足度を調査している。これらの結果や試験結果をもとに、学生気質と教科に対する学生の認識変化について分析し、授業改善の問題点について議論する。

講評 15:40～15:50